

## 和漢薬研究所の概要（各部門の研究目的および主要な研究課題）

2002.4 現在

研究部門等	研究目的および研究課題
<b>漢方薬学部門</b> 教授 谿 忠人 助手 山路 誠一	目的：漢方医薬の経験知を継承し、現代医療における価値を創造する研究。 課題：1. 栽培飼育化の検討と地球環境に配慮した品質評価法の開発と応用、漢方薬の来源と経験知の医薬史学的研究（漢方薬材学）。 2. 現代のコア医療を補完する漢方方剤の検証、軽医療を担う新たな生薬製剤の開発、漢方薬の医療情報研究（漢方薬剤学）。
<b>生物試験部門</b> 教授 渡邊 裕司 助教授 松本 欣三 助手 東田 道久 技官 村上 孝寿	目的：多成分系の伝統薬物である和漢薬の薬効を計量薬理学的方法により評価し、作用機序の解明と作用本体の追究を行う。 課題：1. 和漢薬の新しい薬効評価法を確立するための基礎研究。 2. 和漢薬および薬用植物の薬理作用の解析研究。 3. 中枢神経疾患（不安、うつ、痴呆など）と遺伝子発現に対する薬物作用の解析。
<b>臨床利用部門</b> 教授 浜崎 智仁 助教授 渡辺 志朗 助手 長澤 哲郎	目的：天然薬物の作用機序の解明とその臨床利用。 課題：1. オメガ3系脂肪酸の健康あるいは行動に対する影響。 2. 漢方方剤のリピッドメディエーターに対する影響。 3. ミード酸の抗炎症作用について。
<b>病態生化学部門</b> 教授 済木 育夫 助教授 櫻井 宏明 助手 小泉 桂一 技官 林 和子	目的：和漢薬効果に対応する体質（遺伝的要因）ならびに病態に対する和漢薬の効果を遺伝学、生化学、分子生物学ならびに免疫学など多面的に解析する。 課題：1. がん転移および免疫アレルギー性疾患の制御機構の解明 2. 肺がんのリンパ節転移の分子機構の解明とリンパ管を標的とした治療戦略。 3. シグナル伝達分子による病態制御機構の解明。
<b>化学応用部門</b> 教授 門田 重利 助教授 手塚 康弘 助手 A.H.Banskota 技官 幸田 恭治	目的：和漢薬及びそれに関連する動植物の生理活性成分の分離、構造解析を行なうとともに、それらの有効成分の化学的合成法を開発研究しさらに化学構造と生理活性との相関関係の究明。 課題：1. 和漢薬の生理活性成分の分離、構造解析及び化学的合成法の研究。 2. 和漢薬の化学合成と生理活性との相関関係の究明。 3. 和漢薬の作用物質本体の究明。
<b>薬物代謝工学部門</b> 教授 服部 征雄 助教授 横澤 隆子 助手 宮代 博継 技官 中村 憲夫	目的：和漢薬の薬効、毒性発現に関与する代謝系の分子生物学的研究。 課題：1. 天然薬物の腸内嫌気性菌による変換とその応用。 2. 担子菌類の二次代謝物の薬効とその代謝工学的研究。 3. 腎毒性物質生成機構の分子生物学的解明とその制御。
<b>恒常性機能解析部門</b> （客員部門） 教授 渡部 烈	目的：シトクロム P-450 (CYP) 依存的な医薬品の体内動態に及ぼす和漢薬成分の影響を分子レベルで明らかにする。 課題：1. ヒトにおける代表的 CYP 分子種の大腸菌中での発現。 2. ヒト CYP による医薬品代謝の阻害作用を示す和漢薬成分の検索。 3. ヒト CYP 阻害作用を示す和漢薬成分の単離・構造解析。
<b>漢方診断学部門</b> （寄付部門） 教授 柴原 直利 助教授 喜多 敏明 助教授 後藤 博三 助手 趙 恩珠	目的：経験が重視される漢方医学固有の診断体系を基礎的および臨床的研究により客観化するとともに、普遍的な教育カリキュラムを確立する。 課題：1. 病態や証を客観化するための指標を探索する基礎的・臨床的研究。 2. 漢方医学的病態からみた漢方方剤の薬理効果の基礎的・臨床的研究。 3. 漢方医学的病態の古典的解釈と客観的評価を統合した臨床研修プログラムの開発。
<b>薬効解析センター※</b> センター長 小松かつ子 （併任） 助教授 小松かつ子 助手 東田 千尋	目的：民族薬物資料館に保管される生薬についてデータベースを構築しそれらの薬物の品質並びに薬効に関する研究を通じて世界の民族薬の標準化を図る。 課題：1. 民族薬物の基源と品質の解析。 2. 民族薬物の難治性の神経疾患に対する有効性の検討と作用機序の解析。 3. 世界の民族医薬の調査と比較薬物研究。

※客員教授：M.R.Meselhy 客員助教授：

◎機関研究員（postdoctoral fellow）：趙 静（薬物代謝工学）